

照明デザイナー とLED研究者

夏至の夜の対談

夏至の夜にあわせて「あかり」と「環境」をテーマに、日本を代表する照明デザイナーの石井幹子氏（写真右）と、発光ダイオード（LED）の研究者である川崎雅司



教授（東北大学金属材料研究所、同左）という異色の対談が東京・お台場の日本科学未来館で行われた。対談には仕事帰りのOLやカップルなど約50人の聴衆が参加、ビール片手にリラックスした雰囲気を楽しんでいた。対談では石井氏が「どのくらい明るいLEDができるのか」と質

問、川崎教授は「明るいLEDはあげたいけれども半導体を作るかによる。われわれもこれからどんどん明るくしていく努力をしないと」と述べた。一方、川崎教授が「日本人は蛍光灯で部屋を（こう）と明るくするが、欧米では間接照明が多い。あの違いは（こう）からくるのか」と質問すると、石井氏は「日本人は障子を通したあかりに慣れていたので」はと自説を披露した。